



2026年7月8日掲載

骨太の方針と長期金利上昇をどう見るか

7月第1週に10年物国債利回りが一時2.8%台まで上昇しました。そのきっかけの一つが、政府の「骨太の方針」原案で、「骨太ショック」と報じられました。

骨太の方針は、小泉内閣で2001年に始まった、政府が翌年度以降の予算編成や経済政策の方向性を示すものです。予算そのものではありませんが、市場は将来の財政運営を読む材料として注目します。

今回の原案では、成長投資や危機管理投資を重視する姿勢が示されました。高市政権が従来から述べてきたように、単年度ごとの財政健全化よりも、中長期の成長を重視する姿勢を継続しており、当面の財政悪化と、将来の国債発行増加を意識した投資家が国債を売り、長期金利が上昇したと考えられます。

もっとも、財政が拡大的であることがいつも悪いわけではありません。政府支出が企業の投資を刺激し、経済成長率が高まり、税収増で長期的に財政が改善するのであれば、財政政策には効果があると言えます。

特に、上場企業の多くが投資先のないまま現金保有を続けている現状では、政府の後押しが民間投資の拡大につながる可能性があります。しかし、現時点で市場は、その成長効果よりも財政負担の拡大を先に意識しているようです。

今後、政府による対話で市場の信頼感が醸成され、利上げに慎重とされる政権が、インフレに対抗する日銀の利上げ加速を受け入れ、政策に応じて企業が積極的な投資を始めれば、長期金利は落ち着くでしょう。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》